

一声社: TEL03-6676-2179/FAX03-6326-8150

閑話休題—危うし！紳士服詐欺①

大学4回生の夏。あまりに暑いので、ひと泳ぎしようと大学のプールに向かって運動所横の坂道を上っていた。T シャツに短パン、スリッパ履き。

「暑いなあ」と汗を拭くために立ち止まったその時、キッとブレーキ音がして、車が止まった。「んっ？」と車を見ると、窓が開いて、おじさんが顔を出す。「道でも聞かれるんかな？」と近寄ると、満面の笑みをたたえたその人は、こう聞いた。

「ここの学生さん？ A 先生知ってる？ いやいや、研究室の場所は知ってるよ。今、行って来たばかりだからね。それにしても暑いねえ～。この暑さの中立ち話もなんだから、中へどうぞ。いやいや、そう警戒しないでね。A 先生とは旧知の中でね、お世話にもなってるんだけど、こっちもお世話したりね。まあ、持ちつ持たれつよ。

さあさあどうぞ。女の子でもあるまいし、嫌だったらいつでもドアを開けて逃げればいいんだから」

そう言われると、車の中に入らないのは「怖いから」と思われるようで、ちょっとむっとして中に入った。この辺り、すでにこちらの心理を読んでいる。おじさんは助手席にいて、もう一人若い兄ちゃんが運転手だった。

「実はね、僕らは近鉄百貨店の関係者なんだよね。いや、言っとくけど、近鉄百貨店の店員じゃなくて、あそこに卸している業者なんだよ。何を？って思うじゃない。紳士服。近鉄百貨店にはよく行く？ 行ったことないの？ あんなに近くなのにね。

よく行っていたら、僕らの事も見かけたと思うよ。しょっちゅう出入りしてるから。なあ、A 君（と、若いのに呼びかける）。

昨日まで、紳士服フェアをやっていたんだよ、催し場で。知らないの？ 残念だなあ～。僕らも毎日そこに張り付いていたんだから。いやあ～、売れたよ～！ ねえ、A 君。大忙しだったねえ。でもね、ちょっと問題があったね。こっちの問題じゃないよ。近鉄百貨店がね、あまりに売れるから『もっと並べろ、棚がスカスカじゃ格好がつかない！』ってうるさくてね。こっちとしては、売り切りでやった方がロスがないから儲かるし渋ったんだけどねえ、近鉄百貨店さんにはお世話になってるから。やっぱりねえ～むげに断れないじゃない。そこら辺はわかるよねえ、学生さんも子どもじゃないしね。それでどうなったと思う？ やっぱり余っちゃったのよ。在庫を抱えたの。でも、『やっぱり余ったじゃないですか、どうかしてください』なんて、百貨店に言える？ 言えないよね。言ったら楽よ。でもね、言ったらそれで終わりなの、大人の世界はね。『在庫は、他で売れば？』って？ ふふふ、A 君、やっぱり社会経験のない学生さんだよ。えっ？ 毎日バイトしてる？ 送り無しで！ そりゃ、感心だよ。ねえ、A 君。親の脛をかじってるボンボンとは違うんだよ、彼は。えらい！ そういう若い人を、私は心から応援したい！ いや～、偶然だけど、こんな素晴らしい学生さんに会えるなんてねえ、それだけでもここに来た甲斐があったよ。おじさん、泣けてきちゃうなあ。『A 先生には何の用事だったの』って？ それはね……。 (続く)